

課題名	クライオバルーンを用いた心房細動アブレーションによる消化管蠕動運動への影響に関する検討
承認番号	2019-8 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 循環器内科 氏名 沖重 薫
研究期間	(西暦) 2019 年 4 月 ~ (西暦) 2021 年 4 月
研究の意義・目的	心房細動患者に対するカテーテルアブレーションの有用性は以前から報告されています。肺静脈隔離術を含む心筋焼灼術に関して、従来は高周波を使用したスポットカテーテルによる治療のみが行われてきましたが、現在は他の手法としてクライオバルーン(冷凍バルーン)による治療が行われています。クライオバルーンを用いた肺静脈隔離術に関して、術後の消化管蠕動運動障害の報告は散見されますが、クライオバルーンを用いた左房天蓋部あるいは左房後壁冷凍術の術後の消化管蠕動運動障害に関して詳細な検討は未だ不完全な部分も残っています。当院で施行するクライオバルーンによる心房細動アブレーションの症例で左房天蓋部あるいは左房後壁冷凍術を施行する症例を解析し、有効性および安全性を検討することで治療成績および安全性の向上が期待できます。
研究の方法 (対象期間含む)	2019年4月から2021年4月にかけて当院においてクライオバルーンを用いて心房細動に対して左房天蓋部あるいは左房後壁に対してカテーテル治療を受ける患者を対象とします。患者の背景にある病気や検査結果等の情報、またカテーテル治療の際の治療時間や治療方法の詳細、治療中の患者の状態等の情報、さらにはカテーテル治療後に施行した上部消化管内視鏡検査を含む検査結果あるいは患者の状態、問診による治療前後の患者の症状、心房細動または同様の不整脈の再発の有無、有害事象の有無等の情報を利用して様々な解析をします。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	クライオバルーンを用いた左房天蓋部あるいは左房後壁冷凍術の術後の消化管蠕動運動障害に関して、収集したデータを用いて詳細な検討を行います。データはプライバシーに留意して取り扱います。また、データ解析の際には匿名で行うためプライバシーは保護されております。
利用又は提供する 試料・情報の項目	年齢、性別、身長、体重、合併疾患、術前および術後の上部消化管内視鏡検査含む諸検査データ、クライオアブレーションにおけるバルーン温度等の各パラメータ、術後合併症など
試料・情報を 利用する者の範囲	循環器内科 沖重 薫、その他循環器内科医師
試料・情報の管理における 責任者の氏名又は名称 (当院及び提供先)	循環器内科 沖重 薫
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1

横浜市立みなと赤十字病院 所属 循環器内科 氏名 沖重 薫

TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101